

## 参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	視点「盆踊り雑感—東京音頭を中心として—」
著者 / 所属	加賀谷ちひろ / 憲法審査会事務局
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	461号
刊行日	2023-11-1
頁	2
URL	<a href="https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20231101.html">https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20231101.html</a>

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75013) / 03-5521-7686 (直通))。

## 盆踊り雑感—東京音頭を中心として—

憲法審査会事務局長

かがや  
加賀谷 ちひろ

今夏、日本各地で、コロナ禍で中止されていた盆踊りが再開された。

東京の盆踊りシーズンは、6月半ばの日枝神社に始まるとされることが多い。勤務地に近い会場ではあるが、国会情勢等のため存外参加し難い。結果、筆者の4年ぶりの踊り初めは、「伝統的衣装を着た90%以上の参加者が、5分間正確に踊って某ビール会社名を冠した世界記録に挑戦」という7月半ばのイベントにずれ込んだ。選ばれた曲は誰もが踊り慣れた盆踊りの定番中の定番の東京音頭である。練習を重ね自信を持って本番に臨んだものの、猛暑の中、公式認定員認定の人数は伸び悩み、新記録達成は持ち越しとなった。

この東京音頭、今年で誕生90年を迎えたという。取り上げた新聞記事等を総合すると、製作当時は今年で発災100年の関東大震災の爪痕が未だ残る上に、1929年の世界恐慌等もあり不景気風が吹いていた。そこで地域を元気付けようという地元商店街の店主らの発案で原曲の丸の内音頭が32年に作られ、日比谷公園で初の盆踊りの大会が開催された。翌33年、その人気ぶりを見たレコード会社が東京音頭に改題し歌詞も変更して売り出したところ全国的に大ヒット、ということのようだ。この曲で踊ると感じる一種不思議な高揚感は、宜なるかなである。そこで思い出されるのが、東京2020オリンピック競技大会である。コロナ禍で1年延期となったため、2011年の東日本大震災から10年という節目の年の開催となったこの復興オリンピックの閉会式で、他の伝統的な踊りと並んで東京音頭が披露された意義と巡り合わせは、曲誕生の経緯や背景を知ると今更ながら感慨深い。

90年前、現在の国会議事堂は建築中であり、帝国議会は、今の経済産業省の敷地内にあった第3回仮議事堂で開かれていた。当時の議会関係者は近くの日比谷公園で始まった盆踊りに出掛けたらどうか、やはり政治情勢等でままたまならなかったらどうかと過去に思いを馳せながら、8月、日比谷公園の盆踊り大会に参加した。オフィス街という場所柄終業後の洋服姿が多く、幅広い年齢層の参加者が振付に忠実かつ熱心に、久しぶりの盆踊りを踊っていた。多種多様な曲が流れたが、丸の内音頭と東京音頭共通の哀愁を帯びた旋律が聞こえると皆が活気付き、殊の外楽しそうに踊っているように見受けられたのは気のせいかな。

東京音頭を嚆矢ともして、最近では、ロック、アニソン等新たな盆踊りが次々生まれ盆踊りは伝統を離れ季節さえ問わないレクリエーションになりつつある。その一方で、外国人には日本文化を体感できるイベントとして魅力的な様子で、日比谷公園でも着付けサービスを利用したらしき浴衣姿の訪日外国人が大勢盆踊りを楽しんでた。母子健康手帳の1歳の頃の記録の箇所には、「音楽に合わせて、からだを楽しそうに動かしますか」という記載がある。事程左様に、踊りは人間の本能であり、インバウンド需要の受け口としての盆踊りの可能性を感じるどころである。皆さんも久しぶりに踊ってはいかがだろうか。